



まゆの里事業
染織り講習会

十一月十日、十七日に染織り講習会を行いました。玉ねぎの皮、紅茶、緑茶の種類の染料から班ごとに二種類を染みを選び、みょうばんを使い染色した真綿を一枚一枚丁寧に薄く剥がし、糸を紡ぎ、事前に考案したデザインで織りました。

こんな感じに仕上がりました。



たて糸は、結び方をアレンジして高級感あふれる仕上げ



講習会の様子

みなさん集中して取り組んでいました。

夕鶴の里資料館報

平成25年11月20日

第 35号

発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

いっども芸術祭

十一月十七日(日) 一時三十分より、南陽市民会館で「南陽こども芸術祭」が開かれました。市内の七つの団体が参加し、夕鶴の里からは「小学校語り部養成クラブ」が出演しました。

出前養成講座を受講している中川小学校と漆山小学校の児童と夕鶴の里語り部養成講座より、子どもたちの受講生五名が、それぞれの語りを披露しました。子ども達は緊張した様子もなく、はつきりとした大きな声で堂々と語り、また民話の場面が想像できるくらいに心のこもった素晴らしい語りでした。今後南陽市の文化に興味を持ち、語り続けてくれることを期待しています。



中川小学校
四年生
川崎笑琉さん



漆山小学校
五年生
小川駿汰君



漆山小学校
五年生
平井義祈君



宮内小学校
三年生
遠藤優綺さん



中川小学校
四年生
渡辺陵摩君

南の山の馬鹿むこ

全国どこでも語られる「馬鹿婿ばなし」は若衆になりがけの十二・三歳頃に喜ばれる昔話である。「とんと昔あつたけど」や「むかしあつたけずまなあ」といった囲炉裏端での昔話が一応終わり、若衆組に入れてもらって、木小屋に集まった若衆から聞かされた昔話である。木小屋に集まる若衆に最も人気のある笑話の一つであった。

たまたま、小国町大石沢の川崎みさを嬸が語って下さった「南の山の馬鹿婿ばなし」が、くさり終わり、お茶を「ごちそうになつてゐるときに、誰からともなく、「南の山の、とあるが、一体どこに南の山があるんだべな」という話が出た。「ここから南といったら米沢あたりじゃないか」ということになつた。

しばらく後に米沢市の語りてから昔話を聞く機会があり、《南の山》の話が出たので、その語りては吾妻山の南の方だから、福島県のことだろうと教えてくれた。こんな話であった。

山の村から町に来た婿に、膳を出したら、子どもらが集まってきたので、姑かかさまは「これは恐ろしいから食んねぞ」と子ども

もをおどかしたので、馬鹿婿も膳に盛られた食物に手をつけなかった。そこで料理を苞にして傘の先に結んで、家へ帰ったら食べたらいだらうと云って送り出したが、馬鹿婿は「恐ろしいから食んねぞ」と姑かかさまの言葉を信じて地面に叩きつけて家に帰って来たという。

全国の馬鹿婿ばなしを集めにやつてきた研究者が、もっぱら馬鹿婿の出所とされる福島県の松江股に泊まり、故老を宿に招んで馬鹿婿話を聞こうとしたら、「そんな馬鹿はこの村に居ない」と一話も聞けなかったという。皆さん知っているのに、こんな形で聞こうとすると、語ってもらえないと、私は教えられたと知った。

夕鶴の里特別研究員

武田正



おいしいお蕎麦できたよ～

十一月九日（土）漆山小学校四年生の親子行事でそば打ちを体験しました。

講師は、地元漆山のそば打ち研究会の高橋さんと佐藤さん。

そば打ちの最初の工程が「水回し」。そば粉に少しずつ水分を与え捏ねずに全体に水分がいきわたる用になじませるので、結構、難しく地味な作業。子どもたちは、捏ねたくなるのを我慢して丁寧にこなしていました。

そのあと、練りと切る工程もなかなかのもので、おいしいお蕎麦が完成し、子ども達からは「少し固かった」との感想でしたが、保護者の方は「おいしかった」と喜んでいました。

～お願い～

夕鶴の里駐車場への無断駐車は、除雪の妨げになりますのでご遠慮ください。駐車される方は、必ず夕鶴の里までご連絡ください。47-5800

伝統的講習会受講生による

マフラーの展示をおこないます。

- ★期間 12月1日（日）～12月10日（火）
- ★場所 夕鶴の里 伝統工芸室前

見に来てください！